

4月23日(日) 第二礼拝

「サウルとダビデ」 I 歴代誌 10章 13-14 節

イスラエルの初代の王はサウル、二代目の王はダビデでしたが、神様がサウルを退け、ダビデを選んだ理由は何でしょうか。

第一番目、サウルは人を頼りにしました。彼は、人が自分をどのように見るか、人の目線や反応に敏感でした。彼は、一生の間ペリシテ人と激しい戦いがあり、勇気のある者や力のある者を見つけると召しかかえたとあります。(Iサムエル 14:52) そんな彼には真の平安がありませんでした。なぜなら、人を頼りにし、人と比較する者には平安がないからです。

第二番目、ダビデはサウルとは違い、神様に頼りました。彼は子どもの時から神様に頼った信仰の人でした。13歳のダビデは、3メートルほどの巨人、ゴリアテに対峙し、このように言います。Iサムエル 17:45-47「おまえは、剣と、槍と投げ槍を持って、私に向かって来るが、私はおまえがなぶったイスラエルの戦陣の神、万軍の主の御名によって、おまえに立ち向かうのだ。…おまえの頭を胴体から離し…すべての国はイスラエルに神がおられることを知るであろう。この全集団も、主が剣や槍を使わずに救うことを知るであろう。…」その言葉の通りに、神様はダビデと共に働き、彼を救い出しました。このように神様に頼るダビデを、神様は王として選びました。私たちも問題や状況を見ずに、ゴリアテよりもはるかに大きな神様、全能の神様、創造主なる神様を見ていくべきです。

第三番目、ダビデの永遠の契約です。サウルは神様によって退けられましたが、ダビデは神様と永遠の契約を結びました。IIサムエル 7:16「あなたの家とあなたの王国とは、わたしの前にとこしえまでも続き、あなたの王座はとこしえまでも堅く立つ。」

サウルの罪は現在の法律では罪にならない程度のものです。彼はサムエルが遅く到着したので、先に自分で生贄を捧げてしまいました。アマレク人との戦いでは、アマレク人の王を生かしたまま連れて来てしまい、また、上等な動物は聖絶しませんでした。

逆に、ダビデは現在の法律において罪と定められることを犯しました。部下ウリヤの妻バテシェバを妊娠させてしまい、ダビデはアリバイ工作をしますが、上手いかず、最終的にはウリヤが戦場で死ぬように仕向けます。そこで、預言者ナタンが来てダビデの罪を指摘すると、ダビデはすぐに跪いて泣きながら悔い改めます。詩篇 51:4 はダビデの告白です。「私はあなたに、ただあなたに、罪を犯し、あなたの御目に悪であることを行いました。それゆえ、あなたが宣告されるとき、あなたは正しく…」

サウルは自分の罪を悔いず、弁明し自分を正当化したために神様から退けられました。しかし、ダビデは自分の罪を指摘された時、罪を認め告白したので神様から罪を赦して頂きました。そして神様と永遠の契約を結ぶことができたのです。イエス様は私たちの罪を赦すために来られた方です。永遠の契約とは、イエス様との契約です。いつも御言葉で自分自身を洗い、自分の罪を認めて悔い改めていくことが大切です。アーメン！